

文化の交差点

bunka to bunka no kousaten

2023年風花号



contents...

サークル見聞録

- | | |
|---|----|
| 劇団木霊×早大劇研 別役実作 『マッチ売りの少女』を観て | p1 |
| 国際問題研究会 早稲田祭2023研究展示
『大戦の危機迫る現代世界を問う』(寄稿) | p2 |
| 戦争・貧困・環境を考える会 早稲田祭展示企画
『日本の新たなファシズムとウクライナ侵略に抗して』(寄稿) | p3 |
| 繊維研究会 早稲田祭ファッションショー 『そして廻る』 | p4 |
| 舞台美術研究会二〇二三年度秋季研究会公演 『整う!秋研』を観て | p5 |
| 劇団木霊2023年11月企画公演 『めいめつ』を観て | p6 |
| 早大劇研企画公演 『混ぜ込み炊き込みりメンバーミー』を観て | p7 |

文化の案内板

繊維研究会 / マンドリン楽部 p8・p9

「文化の交差点」2023年風花号

発行日:12月5日

発行者:「文化の交差点」編集委員会 代表・神原(教育4年)

連絡先:090-2331-4456 waseda-bunren@hotmail.co.jp



劇団木霊×早大劇研 別役実 作

『マッチ売りの少女』を観て

(10月27～30日 @早稲田小劇場どらま館)



ある街で平穏に暮らす男と女の家を、一人の女性が訪れた。彼女はかつてマッチ売りをしていた少女だった。少女は二人と会話を重ねるなかで突然、自分が二人の娘であることを主張する。男と女は娘が死んでいることを告げて対立を深めるなか、さらに少女の弟までが登場し... 静かな会話劇が一転、少女の語気が増して一気に緊迫感が高まってゆく、その展開がとても見事で、迫力がありました。

歌唱力抜群の歌謡曲からはじまり、会話の要所所で挿入される独白シーンや弟のダイナミックな登場、「身体性」に焦点を当てた男と女のふらふらとした動きなど、演出にも工夫が凝らされていて面白かったです。

マッチ売りだった少女が発した狂気は、ただ何も考えることなく日々を生きていた男と女への批判めいたものを感じさせる一方、同時に今の私たちにも何か訴える力を持っているなと感じました。時代を越えて、別役実氏の原作に込めた熱意が伝わって来たように思います。

マッチの火が燃えてゆく最後の場面は、光の色合いも演出もとても綺麗でした。今回はWキャスト制。私は「B」を観劇しましたが、「A」ではまた違った展開があるとのこと。そちらも観てみたかった！！ (冷凍みかん)



国際問題研究会 「早稲田祭2023」 研究展示

「大戦の危機迫る現代世界を問う」

(11月4日 16号館306教室)

私たち国際問題研究会は、「早稲田祭 2023」初日の11月4日に16号館306教室で、研究展示「大戦の危機迫る現代世界を問う」を開催しました。イスラエルのガザ侵略、台湾・朝鮮半島をめぐる米中両国の対立、岸田政権の大軍拡・改憲、米軍辺野古新基地建設、大学での軍事研究、ロシアのウクライナ侵略など、実に12テーマ18枚に及ぶ展示がぎっしりと貼りめぐられた会場には、300名以上の来場者が訪れ大盛況でした。



イスラエル政府とイスラム組織ハマスを横並びにして「国際法違反」と非難する論調がメディアなどで大半を占めるなかで、実に17年にわたってガザを包囲し「天井のない牢獄」にしてきたイスラエル政府の所業こそが問われるべきことを鮮明にした私たちの展示は多くの来場者の注目を集め、「何が問題なのかがよく分かった」との声があがりました。

中国・習近平政権や北朝鮮・金正恩政権の軍事挑発を理由として日米安保の強化、日本の大軍拡を正当化する岸田政権のイデオロギーに、メディア、学者の多くが抗し得なくなっているなか、私たちは、対中国の先制攻撃体制を構築する日米政府権力者の策動の危険性を暴きだすとともに、中国やロシア、北朝鮮の政府権力者による挑発的な軍事行動にも反対すべきことを明確にした展示を作成しました。中国・習近平政権の「台湾併呑」に向けた「執念」を、その歴史観に掘り下げて分析した展示には、「中国を見る新たな視点が得られた」との感想が寄せられました。また、北朝鮮・金正恩政権が民衆を犠牲にして核ミサイル開発・配備を進めていることを具体的に明らかにした展示には、「作者の方の、軍拡のために国民を貧困のどん底に叩き込んでいることへの憤りが伝わってきました」といった感想が来場者から出されました。



まだまだ紹介しきれませんが、新たな世界大戦勃発の危機が差し迫る現代世界を私たちはどのようにとらえ・いかに立ち向かうべきなのかをめぐって、私たちと来場者の間で、あるいは来場者間で、活発で真摯な議論が会場のあちこちで繰りひろげられました。私たちはこの展示発表の成果にふまえ、さらに研究を深化させていきたいと考えています。

(国際問題研究会幹事会)

戦争・貧困・環境を考える会

展示企画「日本の新たなファシズムと ウクライナ侵略に抗して」

(11月5日 @ 8号館310教室)



展示の前には人だかりが！

私たち戦争・貧困・環境を考える会は早稲田祭（11月5日）に参加し、展示企画を開催しました。

4月以来、「〈戦争の時代〉の新たなファシズムに抗して」というテーマのもと、部会で論議を重ねてきた研究成果を模造紙にまとめ、24枚の展示に結実させました。岸田政権による沖縄をはじめとした大軍拡・改憲の危険性、〃岸田式〃ファシズムの批判、愛知大生の「反戦デモ参加で退学処分」問題、政府の物価高対策批判、入管難民法、原発推進政策の問題性、介護現場のリアル、ロシアのウクライナ侵略、パレスチナ民衆虐殺の告発、そしてこれらの全体像をまとめた展示紹介など。サークル員の力を合わせ〈戦争と貧困と圧政〉の時代に切り込んだ豊富な展示をつくれたと思います。

当日は、当会の展示企画史上かつてないほど多くの方が来場してくださいました。「岸田政権の悪に対する立場がはっきりしていてとても良かった」（学生）「あらゆる場面で進行中の危機を直視し、社会へ発信していく貴サークルの取り組みを支援したく思います」（社会人）「大変骨太な内容ですね」などといった感想・アンケートも多くお寄せいただきました。会場では討論の輪があちこちで生まれ、活況を呈しました。

世界が〈戦争の時代〉に突入する中で、岸田政権は強権をふるい、戦争準備を進めています。こうした状況を〈新たなファシズム〉だと明らかにした当会の展示に多くの共感を寄せていただきました。こうした成果に踏まえ、さらに研究活動を前進させていきたいと考えています。（会員）

世界が〈戦争の時代〉に突入する中で、岸田政権は強権をふるい、戦争準備を進めています。こうした状況を〈新たなファシズム〉だと明らかにした当会の展示に多くの共感を寄せていただきました。こうした成果に踏まえ、さらに研究活動を前進させていきたいと考えています。（会員）



来場者も多く盛況でした。

繊維研究会 早稲田祭ファッションショー 「そして廻る」

11月5日(日) 早稲田キャンパス 11号館ピロティ

早稲田祭2日目、11号館1階のピロティで開催された繊維研究会のショーはとても独創的でユニークな企画だった。

ファッションショーときけば華やかなものという固定的かつ単純なイメージしかない私にとって、観る前からこのショーのテーマには驚かされた。経年劣化・劣化がテーマだというのだから。何かが古びてその品質や風合いが低下することをテーマにして、衣服の創造をするってどういうことなんだろう？ 疑問と期待を抱きながら向かった。

ふだん何気なく通過しているピロティが、照明と音響機材の入ったランウェイになっている。こんなふうに空間をつくれるんだ！ ショー空間の創出にまず感服。いつ始まるのかな…わくわくして待っていると会場は観客でいっぱいになった。

照明が点き、音が入る。前触れなく、始まった。制作された衣服を着けたモデルたちがつぎつぎと現れた。男性の服、女性の服、性別を問わない表現の作品もある。劣化…？ よく見ると色褪せたり繊維が粗くなったりしている布が使われているのがわかった。長いあいだ大切にしてきた服やもう着れなくなったと思われるものの一部を使っているのかなという作品もある。古びたものの新たな再生が「そして廻る」ということなのかな、などと思いながら、ライトを浴びてランウェイを廻ってゆく作品を見つめた。

このショーを今年入会した1年生だけですべて準備したのだそうだ。11号館ピロティの空気を一変させ、服の創造をつうじてテーマをとらえてみせた繊維研究会の創意性あふれる企画に拍手を送りたい。

(ポインセチア)



独創的なショーが11号館1階を席卷した。

舞台美術研究会二〇二三年度秋季研究会公演

『整う！秋研』を観て

(11月17～19日 学生会館B203)



入り口の暖簾をくぐったら、そこはまさに銭湯のなか！ 番台や定番の富士山のタイル絵などをはじめ、細部まで作りこまれた美術もさることながら、一番驚いたのは空間の使い方。入ったとたん、広々とした空間が広がっていて、銭湯の開放感がとてもよく表現されていました。舞台上の写真を撮り忘れたことを激しく後悔しています。

こころなしか役者のみなさんも、伸び伸びと気持ちよく演技しているよう。普段は裏方の舞台美術が、ここでは主役！ ぶたびさんの本気の力が垣間見えたような気がしました。

演じる側も観ている側も気分爽快、身も心も「整う」！ やっぱり早稲田演劇にはぶたびさんがなくてはならないことをあらためて実感しました。

(サウナ大好き)

劇団木霊2023年11月企画公演

『めいめつ』を観て

(11月24日～26日 劇団木霊アトリエ)

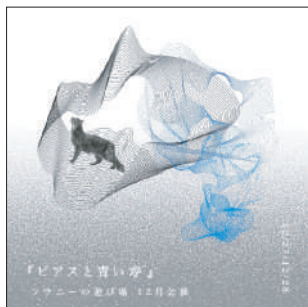


ストーリーはおろか1つ1つの台詞の意味すら解することの困難さ。安易な理解をはねかえす硬質な手触りの劇だった。台詞と台詞の間に唐突に挟まれる「しりとり」のような言葉遊び。無数の「言葉」が乱舞するSNS空間のように見えた。

芝居のクライマックス、マッチが擦られて一瞬舞台が赤く染まる。とても美しく印象的なシーンだが、マッチを擦った当人は「火の色に意味はない」と言い捨てて終演する。「言葉」として表現される以前の「何か」、「言葉」として表現されると失われてしまう「何か」を考えさせられた劇でした。

(文連スタッフ こたつ恋し)

次回公演は…



『ピアスと青い骨』

ーフラニーの遊び場12月公演ー

作・演出 | 乃

日時 | 12月27日(水) 13:00～/18:00～
12月28日(木) 13:00～

料金 | 無料(フリーカンパ制)

会場 | 劇団木霊アトリエ



早大劇研企画公演

『混ぜ込み炊き込み リメンバーミー』を観て

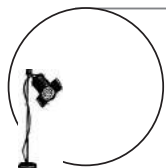
(11月29日～12月3日 @大隈講堂裏劇研アトリエ)



寒さが一気に吹き飛びました。笑いのセンス、ボケやツッコミのタイミングやスピードが洗練されていて、全体の4分の3ぐらいは笑っぱなしでした。相当な練習量を背後に感じさせる熱演です。あっぱれ！

同時に、笑いだけでは終わらないところも本作の見所。ヤク中作家の先生を追っかけの毛利が必死に支え、それが実ったと思ったら同じアパートの住人や大家たちを巻き込んだ大騒動に…「オール電化にしようぜ」から「ペッパー君を買おう！」とか、ナマズが就職するとか……そんなハチャメチャな展開なのに、役者のみなさんが魂を込めて演じているし、話は“先生と毛利がどうするのか”をしっかり軸に据えて進んでいくので、ハラハラしながらもとても面白く観ていられました。

最終章は、大音量の音楽と住人みんなの大合唱で感動を誘うなか、毛利が死んでいくという…悲しくありながらも2人の絆を感じさせる終わり方で見事でした。舞台美術もスケール感があって良かったです。笑いと感激をいただきました！
(鉛筆削り)



繊維研究会 2023年度ファッションショー
「編み目に浮かびながら」

日時：12月17日（日） 3部制

- ①開場 12:30 ~ / 開演 13:00 ~
- ②開場 15:00 ~ / 開演 15:30 ~
- ③開場 17:30 ~ / 開演 18:00 ~

場所：Tokyo Design Center

(東京都品川区東五反田 5-25-19)

アクセス…

JR 山手線五反田駅東口より徒歩 2 分
都営浅草線五反田駅 A7 出口正面
東急池上線五反田駅より徒歩 3 分

観覧料 1000 円 完全予約制

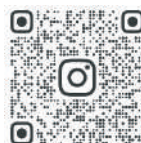
写真 中野道

音楽 Yu Ogu

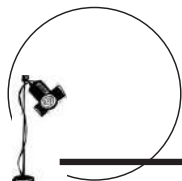


ご予約を希望される方は「X」をご覧ください。

【お問い合わせ】
早稲田大学繊維研究会
<https://sen-i.org>
X: @sen_i_lab



@SENI_1949



早稲田大学マンドリン楽部
第211回 定期演奏会

■日時：2023年12月22日（金） 開演 18:30（開場 18:00）

■場所：ティアラこうとう 大ホール

（都営地下鉄新宿線・東京メトロ半蔵門線「住吉」駅 A4出口より徒歩4分）

■入場無料

■プログラム

第Ⅰ部

モーツァルト／交響曲第40番 ト短調 KV550 第1楽章

モーツァルト／交響曲第41番 ハ長調 KV551〈ジュピター〉第3・4楽章

久松祥三 編曲

第Ⅱ部

ブラームス／交響曲第3番 ヘ長調 作品 90

久松祥三 編曲



■ YouTubeにて同時配信を行います。
詳しくは、「X（旧 Twitter）」、
または、HPをご覧ください。

〈お問い合わせ〉

waseda_mandolin@yahoo.co.jp